

バスクリンのエコレポート

(2011年度 4月～3月の活動結果)



株式会社バスクリン

Vol. 3

発行：2012年8月31日

目 次

1. 会社概要	P-2
2. 対象範囲	P-2
3. 環境方針	P-3
4. 環境目標とその実績		
4.1 環境目標	P-4
4.2 活動実績	P-4
5. 2012 年度の主要な環境活動計画	P-5
6. 環境活動取組結果の評価		
6.1 環境活動結果と達成状況	P-5
7. 2011 年 4 月以降の取組み内容	P-6
8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無	P-6
9. 代表者による全体評価と見直し結果	P-6
10. 環境経営推進体制		
・ 環境組織図	P-7
11. 社内活動のトピックス	P-7

1. 会社概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン
代表者氏名 : 代表取締役社長 古賀 和則

(2) 所在地 : 〒108-0023

東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F

(3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先TEL : 03-6327-2910 FAX : 03-3453-8182

(4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨の開発・製造・販売

(5) 事業規模 (2012年3月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば 研究所	東日本 営業所 東京支 店	名古屋 支店	大阪 支店	福岡 営業 所	岡業	合計
従業員数	人	63	68	33	38	10	19	7		238
敷地面積	m ²	620	19,175	3,127	150	145	250	113		10,679
床面積	m ²	620	10,744	2,033	150	145	250	113		11,654

2. 対象範囲

① 認証・登録の業務 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨・医薬品・食品の開発・製造・販売

② 認証・登録の範囲

本社 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F
静岡工場 : 静岡県藤枝市谷稲葉 242-1
つくば研究所 : 茨城県つくば市東新井 29-9
東日本営業所 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F
東京支店 : 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F
名古屋支店 : 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8
大阪支店 : 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10
福岡営業所 : 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20

③ 活動レポートの対象期間及び発行日

2011年4月から2012年3月



3. 環境方針

企業理念

私たちは、自然との共生を原点として、身体と心と環境の調和を図り、健やかで心地よい生活を提供します。

環境方針

<基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。

- 1) 環境配慮型製品の開発設計
- 2) 環境配慮型製品の販売促進
- 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
- 5) 節水の推進
- 6) 化学物質の削減
- 7) グリーン購入の推進

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。

3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2011年4月1日

東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F

株式会社バスクリン

代表取締役社長 **古賀 和則**

4. 環境目標とその実績

4.1 環境目標（2011年度～2013年度）当初目標

	項目 (部門)	単位	基準年度 (2009年度)	2011年度	2012年度	2013年度
1	二酸化炭素排出量削減(全社)	kg-CO2	1,024,447	992,000 (対2009削減率▲3%)	961,000 (対2009削減率▲6%)	918,000 (対2009削減率▲10%)
	消費電力の削減*	kwh	2,365,928	2,290,000	2,220,000	2,120,000
2	産業廃棄物排出量の削減(静岡工場)	t	165	160 (対2009削減率▲3%)	157 (対2009削減率▲5%)	154 (対2009削減率▲7%)
3	排水量の削減(静岡工場)	m ³	9,528	8,570 (対2009削減率▲10%)	8,100 (対2009削減率▲15%)	7,600 (対2009削減率▲20%)
4	販売促進物の廃棄量低減(本社)	千円	6,812	1,230 (対2009削減率▲82%)	1,230 (対2009削減率▲82%)	1,220 (対2009削減率▲83%)

* 2011年度より、各営業サイトの追加により修正

* 購入電力の排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh(2011年)を採用

4.2 活動実績(2011年度4月～3月)

	項目 (部門)	単位	2011年度 4月～3月 計画値	2011年度 4月～3月 実績値	評価	達成状況をコメント
1	二酸化炭素排出量削減(全社)	kg-CO2	992,000	810,709	○	エコアクションの活動による意識改革により、年間目標に対して、▲18%となった。
	消費電力の削減*	kwh	2,290,000	1,872,308	○	
2	産業廃棄物排出量の削減(静岡工場)	t	160	160	○	ロス低減、分別による有価物への転換等の対策を行った。
3	排水量の削減(静岡工場+つくば研究所)	m ³	10,255	4,590	○	新工場建設につき、多面的に節水方法を検討実施により、年間目標に対して、▲55%となった。
4	販売促進物の廃棄量低減(本社)	千円	1,230	0	○	販売促進物数量の適正化と使用促進活動を積極的に実施した結果0となった。

* 2011年度より、各営業サイトの追加により修正

* 購入電力の排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh(2011年)を採用

5. 2011年度の主要な環境活動計画（具体的取組内容）

	環境目標 (部門)	活動計画 ー具体施策ー
1	消費電力の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中、不要時の消灯、電源 OFF ・ 空調設定温度管理（冷房：28℃ 暖房：20℃） ・ 冷房運転時間：9時から17時00分 ・ 非使用時の会議室空調停止
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+つく ば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品種切替時のロス低減 ・ 分別による有価物への転換 ・ リユース再使用の推進 ・ 新工場での適切な分別処理実施 ・ 営業部門への返品低減策依頼 ・ 試作規模を毎回試算し必要最小限とする
3	排水量の削減 (静岡工場+つく ば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月一回の汚水点検 ・ 部品洗浄時の水使用削減 ・ 節水便器の導入 ・ 節水の呼び掛け ・ 入浴剤評価実験の効率化検討 ・ 装置・機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販促物作成数量の適正化 ・ 適宜使用の促進

6. 環境活動取組結果の評価（2011年4月～3月の活動結果）

6.1 環境活動結果と達成状況

	項目 (部門)	(前年度同期比) 達成：○未達成：×	取組み結果の評価コメント
1	消費電力の削減 (全社)	○	各サイト社員の節電意識が向上し削減が達成できた。特に夏場における節電への協力はエコ教育への自覚がないと進まなかった。エコ教育効果ともいえるのでその点でも評価する。
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場)	○	生産量の増加に伴う産業廃棄物の増加及び、返品の影響はあったが計画値はクリアできた。
3	排水量の削減 (静岡工場+つく ば研究所)	○	年間累計で45%と、確実に実行されている。
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	○	各担当部署・営業部門が適宜に販売促進物を使用して、廃棄物を低減するように努力した。

7. 2012年4月以降の取組み内容

	環境目標 (部門)	2012年度の環境活動の取組み内容
1	消費電力の削減 (全社)	夏場の消費電力削減に全社的に取組み強化を図る。 ・ノー残業デーを従来の水曜日、木曜日、金曜日とした。 ・日中の窓側蛍光灯の消灯 ・蛍光灯の間引き(105本 約30%) ・構内外灯の点灯時間短縮及び点灯本数の半減
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+つくば 研究所)	・生産数量が増加する時期での削減を強化する。 ・試作規模を毎回試算し必要最小限とする
3	排水量の削減 (静岡工場+つくば 研究所)	・継続的に多面的節水行動を図る。 ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置・機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	・年度末に在庫を残さない様、営業部門への情報提供を行う。
5	環境配慮型製品の 販売促進 (本社)	環境に配慮した、詰め替え商品の販売促進を推進する。 ・使用促進 ・商談における啓蒙
6	グリーン購入の推 進 (全社)	環境対応マークの付いた文房具の購入を推進する。
7	化学物質の削減 (静岡工場+つくば 研究所)	化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理 有害廃液の適正な回収 有害試薬の削減
8	環境配慮型製品の 開発設計(静岡工場 +つくば研究所)	・詰替え容器の評価を行う ・PRTR物質減量処方の検討 ・包材重量減量化の検討

8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	確認は○	遵守評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法) ・収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証 ・マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理 ・産業廃棄物交付票の状況報告(事業所ごと)	○	違反無し
2	毒物及び劇物取締法 ・毒劇物法定表示と毒物保管量管理	○	違反無し
3	消防法 ・危険物の保管管理(届出指定数量以下)	○	違反無し
4	容器包装リサイクル法 ・特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・主務大臣への定期報告 ・リサイクル費用の支払い	○	違反無し

※ 当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。
また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

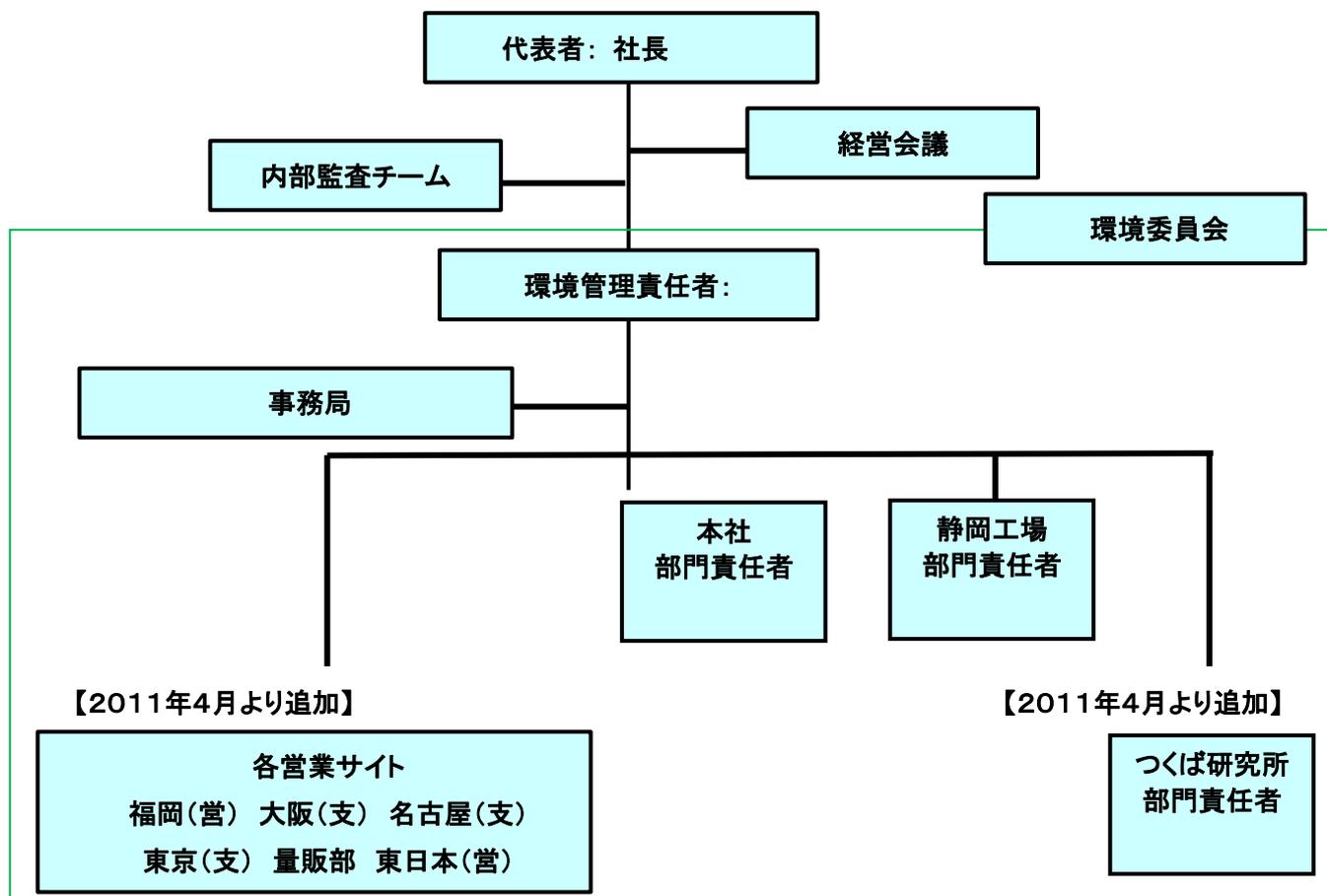
9. 代表者による全体評価と見直し結果

代表者による見直しを 2012 年 5 月 31 日に実施し下表の結果でした。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境方針の見直し	無	現時点での方針の見直しは不要
2	環境目標	無	現時点での活動目標への追加などはない。
3	環境活動計画	無	活動目標については中期計画と実績を踏まえて検討すること。
4	環境経営システムの指示	無	現時点での活動に問題は無いと判断する。
5	全体評価コメント		環境方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 年間を通じて、全社的活動を継続願いたい。

10. 環境経営推進体制

株式会社バスクリンの環境組織



11. 社内活動のトピックス



昨年度の環境活動啓蒙ポスター



今年も継続した効果の大きかったアイデアの紹介

エアコンスイッチの隣に、温度計を設置することにより現在の室温がわかるようになり、こまめなオン・オフ、設定温度の変更ができるようになった



工場危険物倉庫外での危険物漏洩対応訓練



工場危険物倉庫内での危険物漏洩対応訓練

■環境活動レポートに関するお問い合わせ先
株式会社バスクリン CSR推進グループ
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-3-4 田町きよたビル4F
TEL:03-6327-2911 FAX:03-3453-8182
次回環境活動レポート発行予定：2013年6月 第4号